

平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果（市の概要）について

平成28年度の本市の結果は、以下のとおりです。本調査結果は、学力・学習状況の特定の一部分であることを踏まえてご覧ください。

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ウ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の実施学年・実施学校数・実施児童生徒数

学校種	実施学年	実施学校数			実施児童生徒数		
		本市	県(校)	全国(校)	本市	県(人)	全国(人)
小学校	6年生	78校	505校	19,751校	5,205人	14,255人	1,029,578人
中学校	3年生	39校	216校	9,684校	5,037人	14,173人	1,000,432人

(3) 調査の内容

- ア 教科に関する調査（調査対象：小学校6年生、中学校3年生）
国語A・B、算数・数学A・B（Aは「知識」、Bは「活用」に関する問題）
- イ 質問紙調査（調査対象：小学校6年生、中学校3年生、小・中学校）
生活習慣や学習環境等に関する調査

(4) 調査日 平成28年4月19日（火）

2 教科（A「知識」とB「活用」）に関する調査結果

（平均正答率・・・児童生徒の正答数の平均を設問数で割った値の百分率）

(1) 小学校6年生の平均正答率（％）

教科	国語		算数	
	A「知識」	B「活用」	A「知識」	B「活用」
本市	74	59	80	48
県	72	57	79	45
全国	73	58	78	47

(2) 中学校3年生の平均正答率（％）

教科	国語		数学	
	A「知識」	B「活用」	A「知識」	B「活用」
本市	75	66	62	44
県	74	64	60	41
全国	76	67	62	44

小6は、全ての教科で全国を上回っているが、中3においては、国語A、国語Bが、全国をやや下回っている。

3 質問紙調査結果

（児童生徒及び学校に対する質問から特徴的なものを抜粋、単位は％）

(1) 児童生徒に対する質問（質問文は一部省略）

家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話しますか。 ※「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合		小学校	中学校
	本市	82	76
	県	80	76
	全国	79	74

地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。 ※「参加したことがある」と回答した児童生徒の割合		小学校	中学校
	本市	54	61
	県	55	59
	全国	36	49

国語、算数・数学の授業は、好きですか。 ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	国語		小学校	中学校
		本市	51	58
		県	51	58
	全国	58	60	
	算数・数学	本市	71	58
		県	69	57
全国		66	56	

本市の児童生徒は、家の人に学校での出来事を話したり、地域社会などでボランティア活動に参加したりしたと回答した割合が、全国に比べ高い。

算数・数学を好きと回答した割合は、全国、県に比べ高いが、国語については、全国に比べ低い。

(2) 学校に対する質問 (質問文は一部省略)

授業において、コンピュータ等を活用した授業を行いましたか。 ※「週1回以上」「月1回以上」と回答した学校の割合	国語		小学校	中学校
		本市	77	40
		県	65	26
	全国	43	20	
	算数・数学	本市	82	58
		県	71	51
全国		51	32	

前年度までに、近隣等の小(中)学校と、意見を交換し合うなど、教員同士の交流を行いましたか。 ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合		小学校	中学校
	本市	81	92
	県	78	93
	全国	80	85

様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか。 ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合		小学校	中学校
	本市	89	79
	県	92	87
	全国	95	93

国語や算数・数学の授業で、コンピュータ等を活用した授業を行ったり、近隣の小・中学校と教員同士の交流を行ったりしたと回答した学校の割合は、全国、県に比べ高い。

様々な考えを引き出したり、思考を深めたりする発問や指導を行ったりと回答した学校の割合は、全国、県に比べ低い。

4 今後の調査結果の公表等について

(1) 本市

教科ごとに「市・県・全国の平均正答率」、「各教科の平均正答率(5段階)ごとの児童生徒数割合のグラフ」、「教科ごとの本市の課題と改善策」を市のホームページで公表する。

(2) 学校

平均正答率の数値は示さず、全国の平均正答率を100として、市・全国と自校の結果を比較するグラフと、学校の課題に対する改善策を公表する。小規模校で個人が特定される場合は、グラフに代わる公表を行うこともできる。

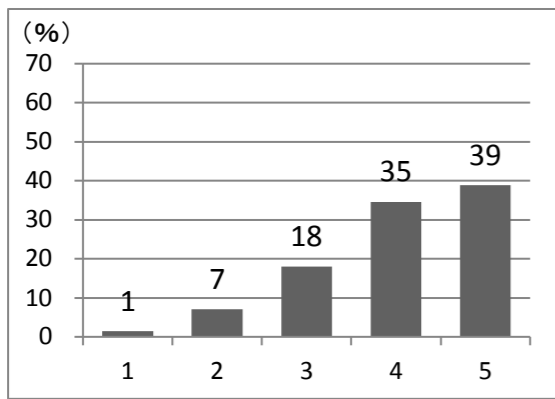
(3) 今後の活用

- ・ 市教委は、今回の調査結果や過去の結果との比較等の分析で明らかになったことについて対応策等を示し、各学校の指導方法の改善に生かすよう指導する。
- ・ 各学校は、自校の調査結果を分析し、過去との比較の上、課題の対応策を立て、指導方法の改善に生かす。

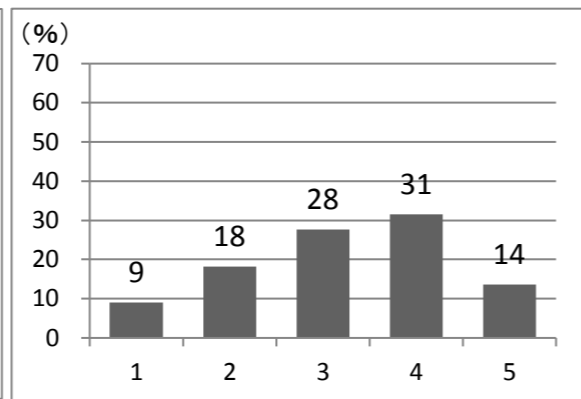
Ⅱ 本市の平均正答率別（5段階）の児童生徒数割合グラフ及び改善策について

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

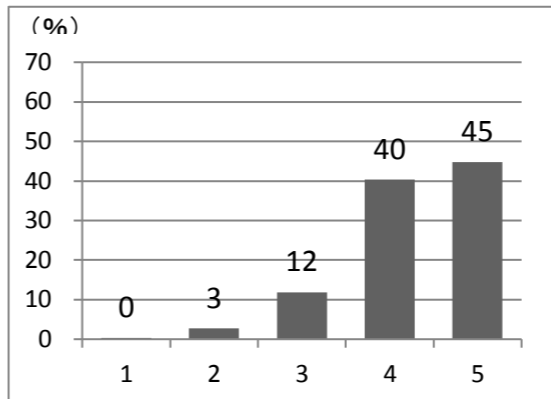


〈課題〉

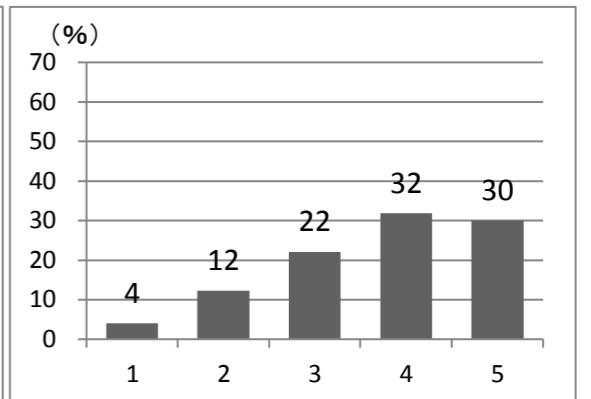
- ・ 5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は74%、B問題は45%であることから、基礎・基本は定着している状況であるが、活用する力は不十分である。
- ・ 登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉えることに課題がある。
- ・ 活動報告文において、課題を取り上げた効果を捉えることに課題がある。

【中学校】

〔国語A〕



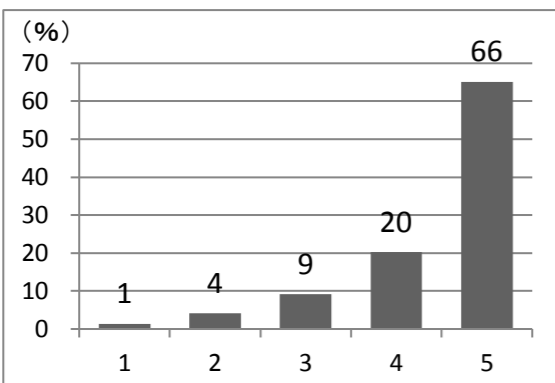
〔国語B〕



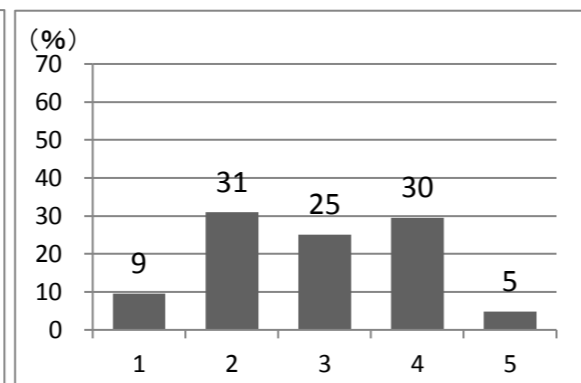
〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は85%、B問題は62%であることから、基礎・基本が定着している状況であるが、活用する力は不十分である。
- ・ 文の成分の照応について理解することに課題がある。
- ・ 話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較することに課題がある。

〔算数A〕



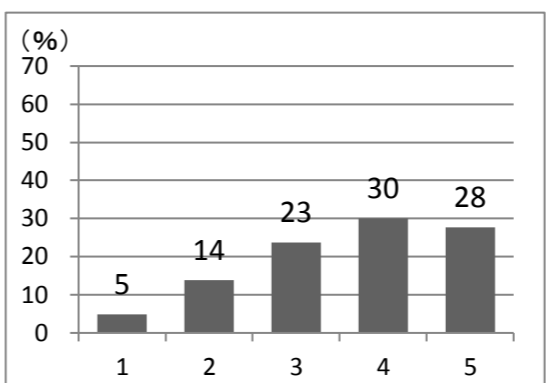
〔算数B〕



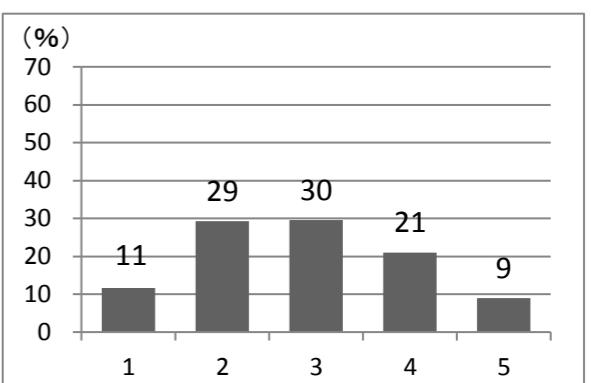
〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は86%であり基礎・基本は定着しているが、B問題の4、5段階は35%、2、3段階は56%であり、中・下位層の活用する力を伸ばしていくことが課題である。
- ・ 加減乗除の意味について、それぞれの特徴・性質を比較し整理しながら、理解することに課題がある。
- ・ グラフや図、表等から読み取り判断したことについて、根拠となる数値や事実に基づいて説明することに課題がある。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、A問題は1、2段階は19%、B問題は1～3段階は70%であることから、基礎・基本及び活用する力ともに十分定着していない。
- ・ 文字を用いて表した数量の関係や法則などを式に表現したり、式の意味を読み取ったりすることに課題がある。
- ・ 証明するに当たり、図形の性質を三角形の合同条件などを基にして確かめ、根拠とするものを適切に選択しながら論理的に考察し表現することに課題がある。

【改善策】

今後、本市の学力向上施策（『確かな学力』の育成）のうち、以下に示す事項について、重点として取り扱っていく。

- 「市中学校かごしま学力向上プログラム」の拠点校・推進校の支援や指導・助言、管理職研修会、教科別研修会等を充実させ「分かる・できる」授業づくりを通して教職員の指導力向上を図る。
- 全国学力・学習状況調査結果分析を各学校へ情報提供し、授業改善や個に応じた指導の充実を図らせるなど、各学校でPDCAサイクルの充実がなされるよう、見届けまで確実に指導を行う。
- 全国学力・学習状況調査や「かごしま学力向上Webシステム」の問題等を各学校の指導計画に位置付けさせるなど、具体的な活用がなされるよう、支援や指導・助言を行う。

また、各学校の学力向上策のうち、以下の内容を特に重点的に取り扱うよう指導する。

- 〔小学校〕(国語科)・人物像に結び付く叙述に注目して、教科書に線を引いたり、人物像について話し合ったりする活動の充実
 - ・ 報告文等について、目的や意図に応じて書く事柄を収集し、整理したり、書いたものを発表し合い表現の仕方に着目して助言し合ったりする活動の充実
- (算数科)・学習した計算方法と既習した加減乗除の計算方法を比較し、図や半具体物の操作と関連付けながら理解させる指導の工夫
 - ・ 結論を導くために、筋道を立てて考えたり、振り返って考えたりする学習の充実
- 〔中学校〕(国語科)・文中における文の成分の順序や照応、文の構成などについて考える活動の工夫
 - ・ 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、自分の考えを広げる話し合い活動の工夫
- (数学科)・図形や関数の指導においては、図やグラフなどから分かることを読み取り、話し合ったり説明したりするなど

論

理的に考える活動の工夫

- ・ 日常的な事象等を数学化することや問題解決のための構想を立て実践すること、他の事象との関係を捉えることなどの「数学的プロセス」を重視した指導の充実

〔全体〕・「まとめ」に対応した問題解決的な「めあて」を設定する授業設計の徹底

- ・ 「思考を促す発問」、「自分の考えに基づく話し合い活動」、「思考過程が分かる板書」を関連付けた指導の工夫による思考力・判断力・表現力の育成
- ・ 調べたり文章を書いたりするなどの授業と関連をもたせた家庭学習の充実(特に言語活動の充実を図るための家庭学習の工夫)
- ・ 他者の話を聞く態度など学習態度の育成

Ⅲ 平成28年度全国学力・学習状況調査
1 国語（本市国語科教育の課題について）

	【全国との比較】
小学校	<ul style="list-style-type: none"> 活動報告文において、課題を取り上げた効果を捉える。 B2三【▲3.6】 登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉える。 A6【▲1.2】 学年別配当表に示されている漢字（省く）を正しく読む。 A1-3【▲0.9】 <p>※ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む。 B3三【+3.5(記述)】 無答率 8.3%【+3.2】</p>
中学校	<ul style="list-style-type: none"> 文の成分の照応について理解する。 A9五【▲5.1】 話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較する。 A7一【▲4.1】 語句の意味（手塩にかけて育てる）を理解し、文脈の中で適切に使う。 A9三ウ【▲3.3】 本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く。 B3三【+0.1(記述)】 無答率 23.4%【▲0.6】

2 本市国語科の課題

- 登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉えたり、目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むこと、課題がある。
- 文の成分の照応について理解したり、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使ったりすることに課題がある。

1 国語科の調査結果

小学校においては、A・B問題ともに、全国平均を上回った。
中学校においては、A・B問題ともに、全国平均を下回った。
平成二十七年と比較すると、中学校のA問題以外は、全国比が下がった。
「読むこと」は小学校B問題以外は全国平均を下回っている。中でも、中学校は四年連続で下回っている。

項	小学校		中学校	
	A	B	A	B
本市正答率	74.1	59.3	75.2	66.2
全国正答率	72.9	57.8	75.6	66.5
全国比(H27)	+1.2 (+1.3)	+1.5 (+3.0)	-0.4 (-0.5)	-0.3 (+0.1)

【中学校A問題9五】
《文の成分の照応について理解する問題》

五次、歴史的な人名を「サグラダ・ファミリア」を新する文章(A)と、それを書き出した文章(B)と、書き出した文章として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。

(A)
「サグラダ・ファミリア」は、一八八二年からスペインで建設されている建築物です。私は、とても日本人が建設に大きく貢献していることを知ってとても驚きました。

(B)
「サグラダ・ファミリア」は、一八八二年からスペインで建設されている建築物です。私は、日本人が建設に大きく貢献していることを知ってとても驚きました。

写真

参考：(建設中のサグラダ・ファミリア)

- 主語と述語を添付して、何がどうしたかを明確にしようとした。
- 並立の構文にある文節を添付して、対象の間にあることを明確にしようとした。
- 指示する言葉と指示される言葉を添付して、何を指しているかを明確にしようとした。
- 修飾・被修飾の間に添付して、何を詳しく説明しているかを明確にしようとした。

【本市正答率】45.7% (全国比▲5.1)

文中の「とても」を指示する語だと誤って捉えた生徒が31.9%いた。
文の成分について、文法単元の時間はもちろん、それ以外の単元においても、短い時間を利用して復習を重ねて、定着を図る必要がある。

6

大森さんは「おばあさんの飛行機」という物語を読み、登場するおばあさんごとのような人物のなかについて考えました。次の「大森さんの考え」をよく読んで、あどの(問い)に答えましょう。

【大森さんの考え】
編み物が大好きで、納得がいくまで編み物の模様をくふうするおばあさんという感じがするな。

(問い) 大森さんは、自分の考えを友達に説明するために、根拠となる表現に……線を引きました。もう一度読むと、根拠となる表現が他にもあることに気がつきました。気がついた表現として最も適切だと考えられるものを、次の【物語の一部】の中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【物語の一部】
(佐々木) 「おばあさんの飛行機」による。

線を引きました

【本市正答率】62.7% (全国比▲1.2)

登場人物の人物像を説明するために、根拠となる表現として適切なものを選択できない生徒が37.3%いた。
日頃から人物像に結び付く叙述に注目させ、教科書に線を引いたり、話し合い活動を取り入れたりと、定着を図る必要がある。

3 課題を示す特徴的な問題
【小学校A問題6】
《登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉える問題》

【中学校B問題7】

《話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較する問題》

7 前田さんの学級では、外国の中学生との交流会のときに和太鼓を演奏するか、折り紙を折るかについて話し合っています。次は、「黒板にまとめた意見」をもとに、さらに付け加えたい意見について隣の席の人と話し合っているところです。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。()の中には、頭の中で考えていることを表します。

候補	長所	短所
和太鼓	・一緒に演奏することを通して交流が深まる。 ・誰にでも音が出せる。	・準備や片付けに手間がかかる。 ・音が大きいので、隣の教室への配慮が必要。
折り紙	・折り方を教えることを通じて交流が深まる。 ・どこでも手軽にできる。	・上手に折るのは難しい。 ・上手に折るのは難しい。

場面①

折り紙の方がよいと思う。既に出されている長所に付け加えて、言葉でうまく説明できなくても動作で折り方を伝えられるというよさを挙げようと思うのだけれど、どうかな。

前田さん 西さん

西さんも私と同じで、折り紙に賛成なんだ。でも、動作で伝えられるというのは和太鼓にも共通していて説得力が足りないな。

場面②

私も折り紙の方がよいと思う。でも、動作でやり方を伝えられるというよさは、和太鼓にも言えるよね。折り紙だけに言えるよさを付け加えないな。

前田さん 西さん

確かにそのとおりだな。

- 1 場面で、前田さんは、西さんの発言をどのように聞いていますか。次の1から4までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。
- 1 西さんの立場を確認し、学級の皆が納得できる意見になっているかどうか考えながら聞いている。
 - 2 西さんが支持している候補に反対し、どのような理由なら反論できるか考えながら聞いている。
 - 3 西さんの意見を受け、自分が支持している候補を変更するべきかどうか考えながら聞いている。
 - 4 西さんの意見に疑問をもち、別の候補がないか理由もあわせて考えながら聞いている。

【本市正答率】6.5% (全国比4.1)

日常生活における課題の解決に向けて、黒板にまとめた意見を基に、相手の発言の意図を汲み取りながら話し合う活動において、十分に意図が汲み取れていない生徒が33.5%いた。日頃から課題解決型の学習課題を与え、能動的な話し合い活動を行うなどの、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業を積極的に展開する必要がある。

4 児童・生徒質問紙との関連

小・中学校の、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたり」する活動や、「うまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てを工夫」する活動について、全国との差が前年度より縮まる傾向が概ね見られたが、中学校では意見などをうまく伝えるための工夫において、差が開いており、早急な改善が必要である。

5 改善のポイント

【小中共通】

- ・ 児童生徒の学力の実態把握や過去の分析を行い、定着の不十分な問題等に意図的に取り組ませる授業の実践。
- ・ 実生活の様々な場面を踏まえた言語活動を位置付ける授業の実践。
- ・ 問題解決型の課題を設定し、解決に向けて話し合い、表現する学習活動の実践。

【小学校】

- ・ 人物像を捉えるために、言動や心情、他の人物との関係を示す表現や叙述を手掛かりに、「人物イメージマップ作り」を行い、心情の変化や人物相互の関係について話し合い、理解を深める学習活動を行う。
- ・ 単元の最後で学習の成果を確認すると共に課題についても考えさせ、課題を見付けることが新たな学びにつながっていくことを意識させる。
- ・ ローマ字の読みや書きについて、継続的な指導を行う。

【中学校】

- ・ 文の成分について、用語の理解のみにとどまらず、生徒が実際に書いた文章を推敲して、主述のねじれを修正するなど、実際の表現に生かせるような学習活動を行う。
- ・ 学習課題を解決するために、個人―グループ―全体―個人の流れを意識した話し合い活動を行う。また、発表の際には、自分の意見が伝わるには、どのような資料や文章、話の組み立てが有効なのかを常に意識させる。よい発表については、どのような工夫がなされていたのかを考えさせ、確認しながら実践的な力を育む。

質問事項	小学校		中学校	
	本市	全国比	本市	全国比
(66)目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。	65.3 (63.1)	▲1.7 (▲2.1)	61.7 (56.1)	▲0.5 (▲3.1)
(52)意見などを発表するとき、うまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫していますか。	61.5 (56.8)	▲2.7 (▲4.4)	50.9 (49.6)	▲6.8 (▲4.4)

Ⅲ 平成28年度 全国学力・学習状況調査

2 算数（本市算数科教育の課題について）

1 算数・数学科の調査結果

小学校では、A問題B問題ともに、全国の平均正答率を上回った。

中学校では、A問題B問題ともに、全国の平均正答率と同等であった。

平成27年度と比較すると、算数のB問題と数学のA問題は、全国比マイナスポイントの状況から0またはプラスの状況へと改善されている。

項	算 数		数 学	
	A	B	A	B
本市正答率	80	48	62	44
全国正答率	78	47	62	44
全国比 (H27)	+2 (+2.8)	+1 (-0.1)	±0 (-0.2)	±0 (+0.4)

2 本市算数・数学科の課題

- ・ 基礎的・基本的な知識及び技能を生かし、思考し、自分の考えを説明することに課題がある。
- ・ 図・式・表・グラフ等を観察して数量の関係を捉え、関連付けて考察すること、図形等の性質を活用して、説明したり、証明したりすることに課題がある。

【全国との比較】	
小学校 ・ 算数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 末尾の位が揃っていない小数の加法の計算をすることができる。 A\square(2)【▲1.3】 ・ 示された式に数値を当てはめて、目標のタイムを求めることができる。 B\square(2)【▲2.7】 ・ グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述することができる。 B\square(3)【▲2.6】 <p>※ 単位量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定することができる。 B\square(1)【+4.6】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数量の関係を文字式に表すことができる。 A\square(1)【▲5.2】 ・ 具体的な事象における2つの数量の関係が、反比例の関係になることを理解している。 A\square(3)【▲5.2】 ・ 筋道を立てて考え、証明することができる。 B\square(1)【▲2.8】 <p>※ 資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる。 A\square(1)【+5.3】</p>

3 課題を示す特徴的な問題

【小学校6年A問題 \square 】(2)

末尾の位の揃っていない小数の加法の計算をすることができるかどうかをみる問題

2

(誤答例)

次の計算をしましょう。

(2) $4.65 + 0.3$

$$\begin{array}{r} 4.65 \\ + 0.3 \\ \hline 4.68 \end{array}$$

【本市正答率】75.8% [全国比▲1.3%]

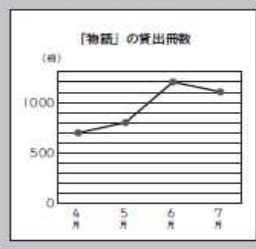
乗法の筆算の仕方と混同し、位を正しく揃えずに計算している誤答が多く、十進位取り記数法の原理に基づいた加法の理解に課題がある。

【小学校6年B問題 \square 】(3)

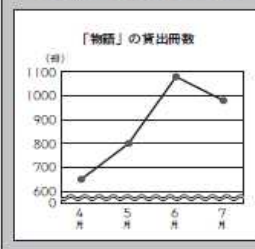
グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を、言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題

(3) 各学校の図書委員たちは、読書活動をすすめた成果を表すために、4月から7月までの4か月間の「物語」の貸出冊数の変化の様子を、それぞれ折れ線グラフにまとめました。

A小学校 図書委員会だより



B小学校 図書委員会だより



けんたさんは、上の2つのグラフの、5月から6月までの「物語」の貸出冊数の変化の様子を見比べて、次のように言いました。

けんた

A小学校に比べてB小学校のほうが、5月から6月までの線のかたむきが急です。
だから、A小学校に比べてB小学校のほうが、5月から6月までの「物語」の貸出冊数の増え方は大きいです。

けんたさんが言っている、＝ 部のことは正しくありません。
そのわけを、グラフから読み取る貸出冊数に着目して、言葉や数を使って書きましょう。

【本市正答率】22.3% [全国比▲2.6%]

グラフを比較し的確に判断することはできるが、その根拠がグラフの数値にあり、それを示しながら説明することが必要であることについて理解していないことが課題である。

【中学校3年A問題2】(1)

数量の関係を文字式に表すことができるかどうかをみる問題

2 次の(1)から(4)までの各問いに答えなさい。

(1) ある数を3でわると、商が a で余りが2になります。ある数を、 a を用いた式で表しなさい。

【本市正答率】27.0% [全国比▲5.2%]

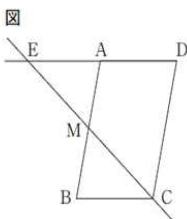
文字を用いて表した数量の関係や法則などを式に表現したり、式の意味を読み取ったりすることに課題がある。

【中学校3年B問題4】(1)

筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる問題

4 右の図のように、平行四辺形ABCDの辺ABの中点をMとし、辺DAを延長した直線と直線CMとの交点をEとします。

ここで、健一さんと琴音さんは、コンピュータを使って平行四辺形ABCDをいろいろな形の平行四辺形に変え、いつでも成り立ちそうなことがらについて調べました。



(1) 二人の予想した $AE = BC$ がいつでも成り立つことは、前ページの図において $\triangle AEM \cong \triangle BMC$ を示すことから証明できます。 $AE = BC$ となることの証明を完成しなさい。

証明

$\triangle AEM$ と $\triangle BMC$ において、

合同な図形の対応する辺は等しいから、
 $AE = BC$

【本市正答率】26.6% [全国比▲2.8%]

証明するに当たり、図形の性質を三角形の合同条件などを基にして確かめ、根拠とするものを適切に選択しながら論理的に考察し表現することに課題がある。

4 児童・生徒質問紙との関連

【児童・生徒質問紙の結果(%)】

(76) 算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。

(85) 調査問題(B問題)の解答時間は十分でしたか。

	番号	本市	全国	全国比
算数	(76)	35.0	33.4	+1.6
	(85)	30.8	29.2	+1.6
数学	(76)	13.8	15.1	▲1.3
	(85)	27.4	34.0	▲6.6

(本市児童・生徒の「当てはまる」割合)

(76)「生活の中での活用」について、小学校は全国を1.6ポイント上回ったが、中学校では昨年度より0.4ポイント低い-1.3ポイントであった。

また、(85)「B問題の解答時間」については、中学校において、全国に比べ時間が足りないと感じている割合が高く、昨年度より更に0.9ポイント低くなった。

問題の内容や解決方法について見通し・振り返りの活動を通して、活用場面の想起や多様な解決方法の創造に取り組みさせる必要がある。また、B問題に類似する問題を数多く経験させる必要がある。

5 授業改善のポイント

(1) 算数・数学共通

- 問題解決的な学習を単元に位置付け、解決方法等を導き出させ、説明させる活動を重視し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。特に、数や式に関する指導では、数量の関係を図に表したり、誤った考えについて考察し、間違いの根拠を説明させたりする中で、原理・法則に基づいた理解が深まるようにする。
- 図形にある特徴や性質等については、作図や観察等の活動を重視するとともに、話し合い活動等において、根拠を持って説明できるようにする。

(2) 算数

数と計算の指導においては、計算処理の仕方だけでなく、図や半具体物の操作と関連付けながら理解を深め、物事を数・量・図形などに着目して観察し、的確に捉えられるようにする。さらに、筋道を立てて考えたり、振り返って考えたりする学習を充実させるようにする。

(3) 数学

図形や関数の指導においては、図やグラフなどから分かることを読み取り、話し合ったり説明したりする活動に取り組みさせ、論理的に考える機会を増やすようにする。さらに、日常的な事象等を数学化することや問題解決のための構想を立て実践すること、他の事象との関係を捉えることなどの「数学的プロセス」を重視した指導を充実させるようにする。

IV 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果分析

児童生徒及び学校に対する質問から全国と比べて特徴的なものを抜粋しました。（単位は％）

【児童生徒に対する質問紙調査結果〈抜粋〉】

家庭や社会への対応等に関すること

		本市	全国
1	Q：家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話しますか。（H28. Q19） ※「している」「どちらかと言えばしている」と回答した児童生徒の割合	82	79
	◆「家の人に学校での出来事について話している」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ高い。	76	74
2	Q：家の手伝いをしていますか。（H28. Q20） ※「よくしている」「時々している」と回答した児童生徒の割合	86	83
	◆「家の手伝いをしている」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ高い。	71	67
3	Q：地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。（H28. Q36） ※「参加したことがある」と回答した児童生徒の割合	54	36
	◆「地域社会などでボランティア活動に参加した」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ高い。	61	49

自己肯定感等に関すること

		本市	全国
4	Q：自分には、よいところがあると思いますか。（H28. Q6） ※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童生徒の割合	76	76
	◆「自分には、よいところがあると思う」と回答した児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。	70	69
5	Q：先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。（H28. Q32） ※「当てはまる」「どちらかと言えばあてはまる」と回答した児童生徒の割合	77	83
	◆「先生がよいところを認めてくれている」と思う児童の割合は、全国に比べ低い。	77	78
6	Q：難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。（H28. Q5） ※「当てはまる」「どちらかと言えばあてはまる」と回答した児童生徒の割合	73	76
	◆「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ低い。	66	70

家庭での生活や家庭学習に関すること

		本市	全国
7	Q：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）。（H28. Q14） ※1時間以上勉強している児童生徒の割合	68	63
	◆学校の授業以外に、1日当たり1時間以上勉強すると回答している児童生徒の割合は、全国に比べ高い。	77	68

		本市	全国	
8	Q：普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）。（H28. Q13） ※1時間以上している児童生徒の割合	小学校	15	19
	◆携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを一日当たり1時間以上使うと回答している生徒の割合は、全国に比べ低い。携帯電話・スマートフォンを持たない児童生徒は全国よりも多いが、7割強の生徒が持っており、その割合は年々高くなっている。	中学校	39	48

読書等に関すること

		本市	全国	
9	Q：読書は好きですか。（H28. Q64） ※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小学校	78	75
	◆「読書は好き」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ高い。	中学校	71	70

		本市	全国	
10	Q：新聞を読んでいますか。（H28. Q37） ※週に1～3回以上読んでいる児童生徒の割合	小学校	22	24
	◆新聞を週1～3回以上読むとする児童生徒の割合は、全国に比べ低い。	中学校	16	18

授業での学習活動等（児童生徒の発表等）に関すること

		本市	全国	
11	Q：これまでの授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか。（H28. Q48） ※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小学校	84	85
	◆自分の考えを発表する機会が与えられていたと回答した生徒の割合は全国に比べ低い。	中学校	81	84

		本市	全国	
12	Q：これまでの授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。（H28. Q52） ※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小学校	62	64
	◆「発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表していた」と回答した児童生徒の割合は全国に比べ低い。	中学校	51	58

		本市	全国	
13	Q：これまでの授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。（H28. Q50） ※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小学校	76	76
	◆「自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う」と回答した児童の割合は、全国とほぼ同じだが、生徒は全国に比べ低い。	中学校	66	69

授業の好き嫌いや分からない事への対応に関すること

			本市	全国	
14	Q:国語・算数の勉強は好きですか？(小国:H28.Q61、小算:H28.Q71、中国:H28.Q61、中数:H28.Q71) ※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童生徒の割合 ◆算数・数学を好きと回答した割合は全国に比べ高いが、国語については全国に比べ低い。	国語	小学校	51	58
			中学校	58	60
		算数・数学	小学校	71	66
			中学校	58	56

			本市	全国
15	Q:授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。(H28.Q60) ※「その場で先生に尋ねる」「授業が終わってから先生に尋ねに行く」と回答した児童生徒の割合 ◆授業の中で分からないことがあったら、「その場で先生に尋ねる」「授業が終わってから先生に尋ねに行く」の回答した児童生徒の割合が、全国に比べ低く、「家の人に尋ねる」と回答した児童生徒の割合が、全国に比べ高い。	小学校	20	25
		中学校	14	20
参考	小学校	③友達に尋ねる	34	32
		④家の人に尋ねる	24	22
		⑦そのままにしておく	5	5
	中学校	③友達に尋ねる	37	35
		④家の人に尋ねる	8	6
		⑦そのままにしておく	6	7

学級活動に関すること

			本市	全国
16	Q:あなたの学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めていると思いますか。(H28.Q29) ※「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した学校の割合 ◆学級会などで自分たちが学級のきまりを決めているかの問いに「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」とした児童生徒の割合は、全国よりも低い。	小学校	78	82
		中学校	70	78

【学校質問紙調査結果〈抜粋〉】

授業でのICT活用に関すること

			本市	全国	
17	Q:授業において、コンピュータ等を活用した授業を行いましたか。(小国:H28.Q57、小算:H28.Q58、中国:H28.Q57、中数:H28.Q58) ※「①週1回以上」「②月1回以上」と回答した学校の割合 (週1回以上、活用している) ◆国語や算数・数学の授業でコンピュータ等を活用した授業を行ったと回答した学校の割合は、全国に比べ高い。	国語	小学校	77	43
			中学校	40	20
		算数・数学	小学校	82	51
			中学校	58	32

児童生徒の学習態度に関すること

		本市	全国	
18	<p>Q：児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていますか。(H28. Q15)</p> <p>※「①その通りだと思う」「②どちらかと言えばそう思う」と回答した学校の割合</p> <p>◆授業中の私語が少なく落ち着いていると回答した小学校の割合は、全国より高いが、中学校においては下回っている。</p>	小学校	94	91
		中学校	89	95

学習指導に関すること(めあてや振り返り)

		本市	全国	
19	<p>Q：該当の児童生徒に対して、前年度までに、授業の中で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れられましたか。(H28. Q36)</p> <p>※「①よく行った」「②どちらかと言えば行った」と回答した学校の割合</p> <p>◆授業の目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れたと回答した小中学校の割合は、全国に比べ高い。</p>	小学校	100	99
		中学校	100	98

		本市	全国	
20	<p>Q：該当の児童生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れられましたか。(H28. Q37)</p> <p>※「①よく行った」「②どちらかと言えば行った」と回答した学校の割合</p> <p>◆最後の振り返る活動を計画的に取り入れていると回答した中学校の割合は、全国に比べ低い。</p>	小学校	95	95
		中学校	89	93

学習指導に関すること(表現力や思考力等を育てる指導)

		本市	全国	
21	<p>Q：学級やグループの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか。(H28. Q17)</p> <p>※「①その通りだと思う」「②どちらかと言えばそう思う」と回答した学校の割合</p> <p>◆学級やグループの話合いなどの活動で、児童生徒は、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると回答した学校の割合は、小・中学校ともに全国に比べ低い。</p>	小学校	71	75
		中学校	63	73

		本市	全国	
22	<p>Q：学級やグループの話合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか。(H28. Q18)</p> <p>※「①その通りだと思う」「②どちらかと言えばそう思う」と回答した学校の割合</p> <p>◆学級やグループの話合いなどの活動で、児童生徒は、相手の考えを最後まで聞くことができていると回答した学校の割合は、中学校が全国に比べ低い。</p>	小学校	85	86
		中学校	82	88

		本市	全国	
23	<p>Q：学級やグループの話合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。(H28. Q19)</p> <p>※「①その通りだと思う」「②どちらかと言えばそう思う」と回答した学校の割合</p> <p>◆学級やグループの話合いなどの活動で、児童生徒は、自分の考えを深めたり広げたりできていると回答した学校の割合は、小・中学校ともに全国に比べ低い。特に、中学校が低い。</p>	小学校	56	69
		中学校	50	71

		本市	全国	
24	<p>Q：様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか。(H28. Q39)</p> <p>※「①よく行った」「②どちらかと言えば行った」と回答した学校の割合</p> <p>◆思考を深めたりするような発問や指導を行ったと回答した学校の割合は、小・中学校ともに全国に比べ低い。</p>	小学校	89	95
		中学校	79	93

		本市	全国	
25	Q：授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。(H28. Q44) ※「①よく行った」「②どちらかと言えば行った」と回答した学校の割合	小学校	83	80
	◆「課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動」を行ったと回答した学校の割合は、全国に比べ、小学校はやや高いが、中学校では低い。	中学校	63	73

		本市	全国	
26	Q：児童生徒に対する算数・数学の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか。(H28. Q74) ※「①よく行った」「②どちらかと言えば行った」と回答した学校の割合	小学校	73	65
	◆算数・数学の指導として発展的な学習の指導を行ったと回答した学校の割合は、小学校は全国に比べ高いが、中学校は全国に比べ低い。	中学校	61	69

学習指導に関すること(言語活動に関する研究や研修体制)

		本市	全国	
27	Q：指導計画について、言語活動に重点を置いて作成していますか。(H28. Q29) ※「①よくしている」「②どちらかと言えばしている」と回答した学校の割合	小学校	82	94
	◆指導計画について、言語活動に重点を置いて作成していると回答した小中学校の割合は、全国に比べ低い。特に、中学校は低くなっている。	中学校	76	90

		本市	全国	
28	Q：各教科の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか。(H28. Q38) ※「①よく行った」「②どちらかと言えば行った」と回答した学校の割合	小学校	90	93
	◆各教科の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けたと回答した学校の割合は、全国に比べ低い。特に、中学校は低くなっている。	中学校	79	89

		本市	全国	
29	Q：学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか。(H28. 小Q112、中Q110) ※「①よく行った」「②どちらかと言えば行った」と回答した学校の割合	小学校	89	91
	◆学校全体で言語活動の実施状況や課題について全職員の間で話し合ったり、検討したりしていると回答した学校の割合は、全国に比べ低い。特に、中学校は低くなっている。	中学校	63	82

		本市	全国	
30	Q：言語活動について、国語だけでなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか。(H28. 小Q113、中Q111) ※「①よく行った」「②どちらかと言えば行った」と回答した学校の割合	小学校	82	92
	◆言語活動の取組を、国語以外の各教科等を通じて、学校全体として取り組んでいると回答した学校の割合も、全国に比べ低い。特に、中学校は低くなっている。	中学校	74	88

学級経営に関すること

		本市	全国	
31	<p>Q：学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか。(H28. Q49) ※「①よく行った」「②どちらかと言えば行った」と回答した学校の割合</p> <p>◆学級全員で取り組んだり挑戦したりするテーマをよく与えたとする本市の小・中学校の割合は、全国に比べ小学校は高いが、中学校は低い。</p>	小学校	94	91
		中学校	71	85

研修や研究会に関すること

		本市	全国	
32	<p>Q：教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか。(小：H28. Q110、中：H28. Q108) ※「①よくしている」「②どちらかと言えばしている」と回答した割合</p> <p>◆参加した研修の成果を積極的に反映させているという本市小中学校の割合は、全国に比べ低く、「その通りだと思ふ」とする学校は、全国に比べ低い。特に、中学校は低くなっている。</p>	小学校	90	96
		中学校	76	92

		本市	全国	
33	<p>Q：児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか。(小：H28. Q107、中：H28. Q105) ※「①よししている」「②どちらかと言えばしている」と回答した割合</p> <p>◆いわゆるアクティブ・ラーニングの研修を行っているという回答した小中学校の割合は、全国に比べ低い。特に、中学校は低くなっている。</p>	小学校	71	73
		中学校	45	64

小・中学校の交流・連携に関すること

		本市	全国	
34	<p>Q：前年度までに、近隣等の小・中学校と、意見交換し合うなど、教員同士の交流を行いましたか。(小：H28. Q81、中：H28. Q80) ※「①よく行った」「②どちらかと言えば行った」と回答した割合</p> <p>◆近隣の小・中学校と教員の交流を行っているという回答した中学校の割合は、全国に比べると高い。</p>	小学校	81	80
		中学校	92	85

		本市	全国	
35	<p>Q：前年度までに、近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか。(小H28. Q82、中H28. 81) ※「①よく行った」「②どちらかと言えば行った」と回答した割合</p> <p>◆近隣の小・中学校と教育課程に関する共通の取組を行ったという回答した学校の割合は、小・中学校ともに全国と比べ低い。</p>	小学校	41	47
		中学校	50	55